

用語集

用語	意味
ア行	
IoT	Internet of Things（インターネット・オブ・シングス）の略。自動車、家電製品や建物がインターネットを通じて、サーバーやクラウドサービスや相互接続され、モニタリングやコントロールを可能にする仕組みのこと。
EV	ガソリンエンジンを搭載せず、電気駆動のモーターで動く自動車のこと。走行中に二酸化炭素や排気ガスを出さないため、ガソリン車と比較して環境負荷が低い。
ウェルビーイング	幸福で肉体的、精神的、社会的全てにおいて満たされた状態のこと。
AI	Artificial Intelligence(アーティフィシャル・インテリジェンス)の略。人間の知的営みを行うことができるコンピュータープログラムのこと。一般に「人工知能」と和訳される。
FCV	燃料電池において水素と酸素の化学反応をさせて発電した電気を動力源とし、電気駆動のモーターで動く自動車のこと。走行中に二酸化炭素や排気ガスを出さないため、ガソリン車と比較して環境負荷が低い。
おでかけシャトル	鉄道駅やバス停から一定程度離れた公共交通圏域外を中心に、自宅と最寄駅、生活利便施設などをつなぐ新たな交通サービスで、地域や企業等が主体となり、行政が「横浜市みんなのおでかけ交通事業」で支援して導入する、地域に身近な地域公共交通の総称。
カ行	
改正障害者差別解消法	「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の一部を改正する法律（令和3年法律第56号）」の略称。共生社会実現のための取組を推進するため、事業者に対し合理的配慮の提供を義務付けるとともに、行政機関相互間の連携の強化を図るほか、障害を理由とする差別を解消するための支援措置を強化することを定めた法律のこと。
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させること。
既存ストック	今まで整備されてきた公共施設、建築物などの都市施設のこと。
共創	社会的課題の解決を目指し、民間事業者と行政の対話により連携を進め、相互の知恵とノウハウを結集して新たな価値を創出すること。
グリーンスローモビリティ	時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービス、車両のこと。走行中に二酸化炭素や排気ガスを出さないため、ガソリン車と比較して環境負荷が低い。

公共交通圏域	勾配を考慮した道路距離で、鉄道駅から 800m 以内、バス停から 300m 以内のいずれかに含まれる地域を公共交通圏域と定義しています。 一方、どちらにも当てはまらない圏域うち、住宅系の土地利用がされている地域を公共交通圏域外（いわゆる交通空白地）と定義しています。
公共交通分担率	ある交通手段のトリップ数の全交通手段のトリップ数に占める割合のこと。トリップ数とは、ある目的である地点から別の地点へ移動する際に、その移動を単位として数えること。
公共ライドシェア（自家用有償旅客運送）	道路運送法第 78 条第 2 号（自家用有償旅客運送）に基づき、地方公共団体の主宰する「地域公共交通会議」等で、関係者間で協議が調った場合に、地方公共団体や NPO 法人等が自家用車や一般ドライバーを活用し、有償で旅客を運送する事業のこと。 交通空白地有償運送（バス・タクシー事業者のサービス提供が困難な地域で地域住民等の運送を行うもの）と福祉有償運送（タクシーその他の公共交通機関を利用することが困難な身体障害者等であって、市町村に会員登録を行った者等の輸送を行うもの）に分けられる。
サ行	
サイクルポート	シェアサイクルの貸出・返却拠点のこと。
GX	グリーントランスフォーメーションの略。「2050 年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」という、カーボンニュートラルの状態にいち早く移行するために必要な経済社会システム全体の変革のこと。
シームレス	「継ぎ目のない」の意味。乗継等の交通機関間の「継ぎ目」や交通ターミナル内の歩行や乗降に際しての「継ぎ目」をハード・ソフト両面にわたって解消することにより、出発地から目的地までの移動を円滑かつ利便性の高いものとする。
シェアサイクル	誰もが手軽に利用できる自転車のレンタルシステムのこと。地域内に設置された複数のサイクルポートを相互に利用でき、借りた場所でなくても自転車を返却できる。
施設送迎車	民間施設（商業、医療、福祉施設等）の送迎用に運行されている車両のこと。
自動運転	運転者ではなくシステムが、運転操作に関わる認知、予測、判断、操作の全てを代替して行い、車両を自動で走らせること。
生活交通バス路線	バス路線が廃止されることによる公共交通圏域外の発生を防ぎ、市民の日常生活の利便性を確保するために維持が必要と認められる路線のこと。
生活利便施設	商業施設、医療施設、福祉施設など日常生活を営むうえで必要となる施設そのと。

ソーシャルキャピタル	人と人とのつながり（信頼関係や結びつき）をあらわす概念のこと。
タ行	
タクシー配車アプリ	スマートフォンのアプリを通じてタクシーの呼び出しや予約ができるサービスのこと。
脱炭素化	二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を削減、またはゼロにすることを目指す取組のこと。
脱炭素社会	カーボンニュートラルを実現した社会のこと。
短絡化	既存のバス路線のうち、長距離路線などの経路の一部を需要に応じた区間に短く区切り乗継拠点でつなぐなど、運行効率を向上させる取組のこと。
地域公共交通	地域で常に提供され、不特定多数の人が安全・安心に利用できる交通サービス。一般に地域交通と略して呼ばれることもある。
地域公共交通計画	地域住民、交通事業者、企業・団体等、横浜市の連携により、市域全体で地域公共交通を充実させるための取組を推進するアクションプラン。
地域交通法	「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成 19 年法律第 59 号）」の略称。地域の主体的な取組等によって、地域旅客運送サービスの持続可能な確保に資する地域公共交通の活性化及び再生を推進するため、地域公共交通計画の作成やこれに基づき実施する事業等について定めた法律のこと。
DX	デジタルトランスフォーメーションの略。AI、IoT、自動運転などの新たなデジタル技術を用いて生産性の向上や新たな事業モデルの創出などの実現を目指す経済社会システム全体の变革のこと。
デマンド型運行	利用者からの予約に応じて必要な時に必要な区間を運行する形態のこと。
ナ行	
二種免許	バスやタクシーなど「人を乗せて運び運賃をもらう」旅客運送のために必要となる自動車の運転免許の種類のこと。
日本版ライドシェア（自家用車活用事業）	道路運送法第 78 条第 3 号（国土交通大臣の許可を受けて行う運送）に基づき、国土交通省が指定する「タクシーが不足する地域、時期及び時間帯」において、法人タクシー事業者が地域の自家用車や一般ドライバーを活用し、有償で旅客を運送する事業。
乗合タクシー	10 人以下の人数を運ぶ営業用自動車（緑ナンバー）を使用した、不特定多数の旅客が乗り合う交通サービスのこと。
乗継拠点	バスの幹線から支線などへの乗換地点のこと。乗降、待合、車両の停留に資する機能を確保することを基本とする。

ノンステップバス	バス車両の床面が低く、車いすのまま乗車することができるバス車両のこと。車いす利用者のほか、杖を利用している方、高齢者、ベビーカー利用者などさまざまな人々のスムーズな乗降を可能とする。
ハ行	
パーソナルモビリティ	自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1人～2人乗り程度の車両のこと。
パーソントリップ調査	10年に一度、一定の圏域に居住する人を対象に、人、日時、目的、出発地及び目的地、移動手段等についてサンプル調査を実施し、対象圏域における1日の全ての動きをとらえるもの。この結果から、鉄道や自動車、徒歩といった各交通手段の利用割合などを求めることができる。
バリアフリー	高齢者や障害者などが社会生活をしていくうえで障壁（バリア）となるものを取り除く（フリー）こと。物理的、社会的、制度的、心理的、情報面でのバリアなど、全てのバリアを取り除くという考え方。
フレイル	年齢を重ねたり、病気になったりすることで、体力や気力、認知機能など、からだところの機能（はたらき）が低下し、将来介護が必要になる危険性が高くなっている状態のこと。
ボランティア輸送	地域や団体等が主体となり、自家用自動車（白ナンバー）を活用して原則無償で人を運ぶこと。
マ行	
MaaS	Mobility as a Service（モビリティ・アズ・ア・サービス）の略。複数の交通サービスをシームレスに利用できるだけでなく、生活の中での様々なサービスと連携して提供する考え方。
ヤ行	
ユニバーサルデザインタクシー	広い開口部にスライドステップを備え、車いすのまま乗車できるなど、障害者や高齢者に配慮された誰もが使いやすい一般タクシー車両のこと。一般タクシー料金で利用することができる。
ラ行	
連節バス	2つの車体をつないだバスのこと。多くの方が利用する幹線バス路線において導入されている。通常の大型バスと比べて全長約1.8倍であり、定員約1.5倍（約110名）確保できる。
路線定期運行	予め定められたルートを決められた時刻に運行する形態。利用者は運行ルート上に設置されたバス停で乗降する。